

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

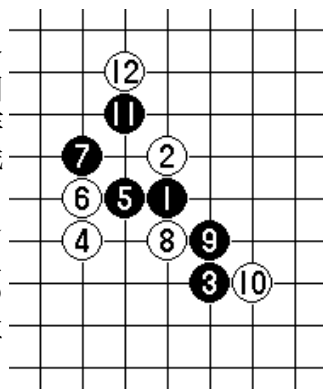
●第21回●

山月山嵐定石

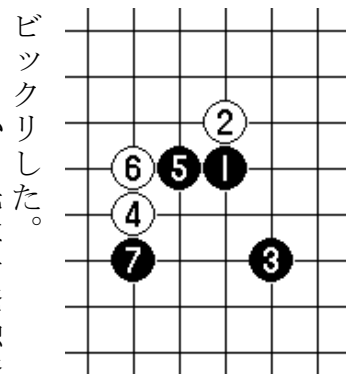
今年も長く熱い戦いであるA級リーグが終わった。苦しい戦いではあったが、8勝1分の自己最高成績で優勝することができた。今期作戦として準備できたのは山月山嵐（やまおろし）の定石だけであった。したがって、仮先の時にだれにいつそれをかけるかが重要であった。一番効果的だと思ったのが岡部君だが、あとは飯尾さんぐらいかと思っていた。前日の集合日に組み合わせ抽選があったのだが、あらかじめ全局の仮先後が決まるとあって、誰に何をかけるかで悩むこととなった。以前なら握りで決めていたため事前の予測が立てにくいだが、あらかじめ決まっていると仮後の時は悩まなくて済むため気が楽だ。その代わり、仮先の時は随分悩むことになる。今回、5局あった仮先のうち、3局に山月山嵐の定石をかけ、3勝できた。間違はなく優勝の原動力となった。しかも相手が飯尾、岡部、佐藤という優勝候補や実力者であることを考えると、非常に大きかった。棋譜はネット中継では公開されてはいるものなぜかその後は非公開になっているのでここではなかなかすべてを見せられないが、ポイントだけ説明したい。なお、棋譜の公開については、今後連珠社として公開の方向で検討されていくものと思っている。

この背景にあるのが、以前から何回か紹介しているハンゲーム上での連珠教室のネタである。よく定石を説明していたのであるが、山月山嵐についても解説していた。珠友255号でも山月定石を解説しているの

照してほしい。



今回作戦としたのはこの白12である。例によって竹内定石を見て解説していたのだが、元となった「山月の研究」(我流会発行)で掲載されている手順を追ったが、その一変化に対する勝ちが全然見つからなかった。そこで今回これなら作戦になると思い、A級でかけてみた。まず最初のターゲットは飯尾さんである。定石をかなり知っていそうなのでかけたのだが、いきなり黒7で長考された。さすがに定石は知らないはずはないと思っていたが、あまりその先を知らないのが、変化したとの事。でもこの7は

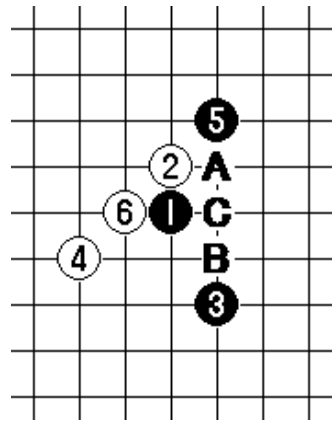


ビックリした。

ここから先は一発触発の局面となったが、何とか攻めが続いて短手数で勝つことができた。

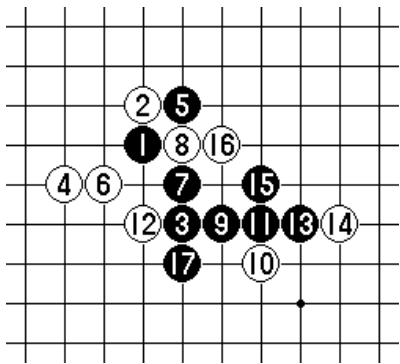
2日目には岡部君と、3日目には佐藤さんとこの作戦を使ったが、結局私が用意した作戦までたどり着いた人はいなかった。それはそれで実戦というものののだが、実はひそかに恐れていた変化があった。それは、いきなり五珠で変化される事である。

山月山嵐で有名なのは黒5だが、白6の時黒7はAかBで必勝であるが、Cでも苦労はするが黒が良さそう。そうすると、黒5で

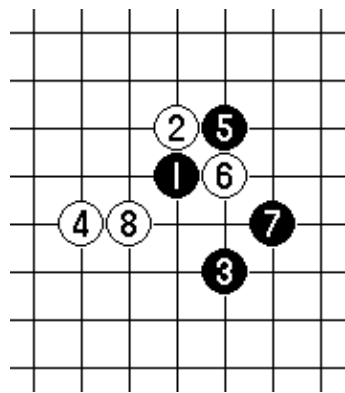


A、Cでも打てる可能性がある。つまり、白6を6と引くと黒5と止めて通常の形に戻るため、黒としては考えやすい。

例として黒5と打つ手はないか考えてみよう。白6は当然打ちたい所だが、さすが黒7から引き出され

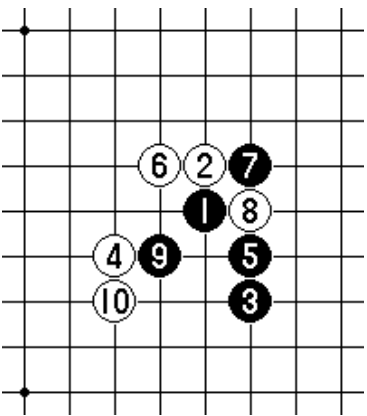


て困る。黒17となつては明らかに黒勝ちだ。

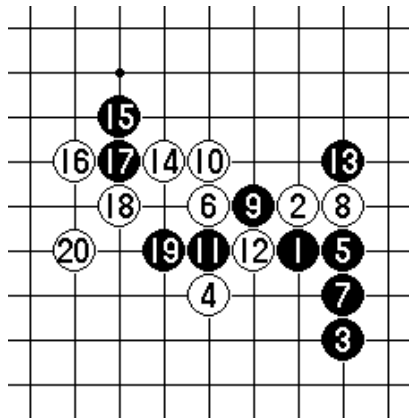


となると、白6と防ぐ事になり、これはどっちが有利なのだろうか？

また、黒5もある。しかし、さすがに白6と打ち、黒はちよつと苦しいか？白10までなら何とか防げそうだ。



さらに、この黒5も当然考えなくてはならない。

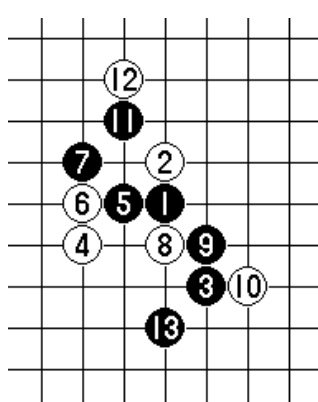


白6と大きく構えるのだろうか？黒7から攻めてきても、白14から攻めに転じて白20まで勝ちとなる。

とにかく、こういう五珠の変化を考えておかないと思わぬ手に足をすくわれることになる。かつて中村名人もこういうようなことを言っていたが、ようやくその意味がわかるようになってきた。

さて、冒頭の変化に戻るが、黒13からいきなり追いつ勝ちがあるそうである。そ

れは変化が長いので割愛するが、とある人から黒13の呼手を指摘された。これがまた素晴らしい呼手で、白防ぎようがない。もし、実戦でこの手を打たれて負けたりとしても、腹は立たないだろう。



新一手一勝とはよく言ったもので、この作戦も今回の限りだろう。しかし、定石の周りの作戦を掘り出すことは面白い。外国勢にもぜひこの面白さを知って欲しいと思つている。今回、日本の意地か、瑞星が2局しか出なかつたことも合わせ、日本の連珠は違うんだぞ、とアピールできたのではないかと思う。